

講義名	解剖学
開講学年	1
単位	2

授業の達成目標	人体の構造やはたらきを知ること、栄養学の根本的な部分を理解し、他分野との関わりを深め、説明することができる。
授業の概要	難解な分野において、様々なデータや疾患例・解剖図を提示し、理解を深める。
授業形式	講義および実験

授業計画表

回	項目	内容	キーワード・備考
1	身体の構造	生物の体を細分化し、栄養がどのように代謝されるかを理解する	ATP、細胞小器官（オルガネラ）
2	組織	組織の種類と構造を知り、各機能や構成細胞を学ぶ	上皮組織、筋肉組織、神経組織、支持組織
3	骨格系	身体を支え、且つミネラルの貯蔵庫である骨格筋構造や種類を学ぶ	オステオン、軟骨
4	筋肉	身体を動かすことに必要な筋肉の種類と機能を学ぶ	骨格筋、平滑筋、心筋
5	循環系	血液を全身に輸送する循環器系の構造や血圧について学ぶ	動脈、静脈、心電図、血圧
6	呼吸器系	身体全身に酸素を取り込み、体内で生じた二酸化炭素を体外に排出する呼吸器系の構造を学ぶ	肺、呼吸、ガス交換
7	消化器系	栄養素を消化し、吸収を行う消化器系の構造について学ぶ	口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう系、膵臓
8	腎・尿路系	尿を作成すると同時に電解質維持や血圧を調節する泌尿器系の構造を学ぶ	尿、ネフロン、浸透圧

9	生殖器系	子孫を残す為の器官である生殖器の構造を学ぶ	性分化、妊娠
10	内分泌系	全身に作用し、恒常性を維持するホルモンのはたらきを学ぶ	視床下部、下垂体
11	神経系	体外・体内情報を中枢に伝え、反応を生み出す神経系の構造を学ぶ	シナプス、ニューロン
12	感覚器系	ある刺激を感覚受容器で受け取り、電気信号に変える感覚器系の構造を学ぶ	視覚、聴覚、嗅覚 味覚
13	皮膚	全身を覆い、様々な侵襲から体内を保護している皮膚の構造を学ぶ	触覚、圧感、冷感
14	免疫系	自己と非自己を認識して、生体機能を調節するシステムである免疫系の概念を学ぶ	体液性免疫、 細胞性免疫
15	まとめ	前期の総括	

事前・事後学習の内容	順次教科書の前半から授業は進めていくため、予習をしておく。
成績評価の方法	テスト 100% 評価基準は合計90点以上：S、85～89点：A+、80～84点：A、75～79点：B+、70～74点：B、65～69点：C+、60～64点：C、60点以下：D とし、D は不合格とする。ただし、出席が2／3未満の場合は評価をせず不合格とする。
参考書	無し
教材	教科書（栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学：羊土社）